

2026年6月6日  
水資源・環境学会2026年度研究大会  
大阪学院大学

# 長岡京市環境基本計画の変遷と現在地

立命館大学名誉教授  
公益財団法人千里リサイクルプラザ理事長  
小幡範雄

# 研究の背景と目的

## 研究の背景

- ・水資源・環境学会に地域環境計画検証研究会が発足(2025年9月)
- ・この研究会では、環境基本計画の**理念・課題・政策の方向性**を議論
- ・具体的には、彦根市、長岡京市、高槻市、吹田市を総合的レビュー

## 研究の目的

- ・本研究報告では、著者が担当している長岡京市の2001年から2022年までに3期に渡って**初動期、発展期、成熟期**と環境基本計画策定の意味と背景(なぜ計画をつくったのか)、3期にわたる**計画の内容その比較**、計画策定と進行への**市民参加(市民参加と行政との関わり、パートナーシップ)**、総合的な環境まちづくりのビジョンのプロセス等について分析・考察し、今後の地方自治体における環境基本計画の策定に関しての知見を示す。

## 長岡京市の位置と概要

京都盆地の西南部に位置し、東西約6.5km、南北約4.3km、総面積19.17km<sup>2</sup>の東西に長い地形。総面積の約65%が可住地の平たん部。残りの西山山地が本市の景観の主体。四季折々の美しさを見せる西山の裾野のなだらかな丘陵に住宅地。市内には阪急とJRの駅があり、電車で京都市内まで約10分、大阪まで約30分。長岡京ICのほが大山崎JCT・ICにも近く、交通の便がよいまち。

2026年4月1日現在  
総人口81856人  
男性39583人女性42273人  
世帯数38450世帯



## 長岡京市の行政の歴史と環境に関すること(1)

西暦	月	市全体のできごと	環境に関するできごと
1971	3	長岡町総合計画	
1972	10	<b>長岡京市誕生</b>	
1974	10		<b>長岡京市生活環境の向上等に関する基本条例を制定</b>
1975	1	八田敏夫、長岡京市長に就任	
1976	1		<b>長岡京市地下水採取の適正化に関する条例</b>
1979	1	五十棲辰夫、長岡京市長に就任 (1991年1月まで3期)	
1982	10		<b>財団法人長岡京水資源対策基金の設立</b>
1984	3	<b>長岡京市新総合計画</b>	
1991	1	今井民雄、長岡京市長に就任 (2003年1月まで3期)	
2000	12	いのち輝く長岡京市 平和都市宣言	
2001	3	<b>長岡京市第三次総合計画</b> を策定(基本構想:2001年~2015年、基本計画:2001年~2005年、実施計画として3年分)	<b>長岡京市第一期環境基本計画</b> (2001年3月から2013年3月)を策定

## 長岡京市の行政の歴史と環境に関すること(2)

西暦	月	市全体のできごと	環境に関するできごと
2003	1	小田豊、長岡京市長に就任(3期まで)	
2004	2		西山森林整備推進協議会設立
2004	3		長岡京市緑の基本計画
2007	3		長岡京市一般廃棄物処理基本計画
2009	1		<b>“環境の都”長岡京市環境都市宣言</b>
2011	3		長岡京市地球温暖化対策実行計画 2011年度から2030年度を計画期間
2012	2		<b>長岡京市水循環再生プラン(実施期間:2030年までの20年間)</b>
2012	3		長岡京市一般廃棄物処理基本計画【改訂版】
2013	3		長岡京市第二期環境基本計画を策定(概ね10年間を計画期間)
2015	1	中小路健吾、長岡京市長に就任	
2016	3	<b>長岡京市第4次総合計画</b> (第1期～第3期2030年度まで)	
2017	3		長岡京市緑の基本計画(改定版)
2022	3		長岡京市一般廃棄物処理基本計画
2022	3		<b>長岡京市第三期環境基本計画を策定</b>
2026	3		長岡京市第2次緑の基本計画

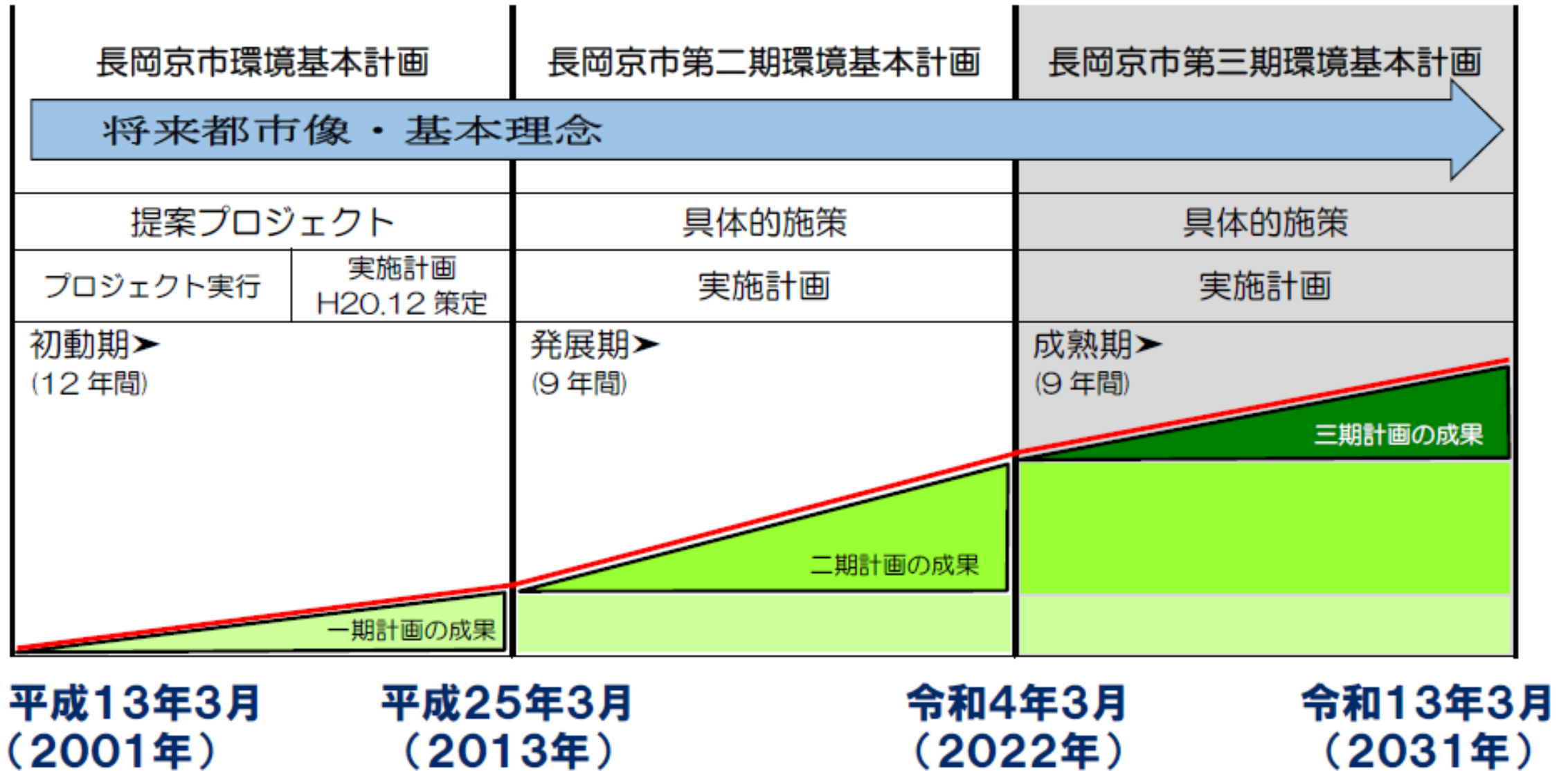
## 国の動き

- ・環境基本法(1993年制定)第15条:環境保全に関する国レベルの総合的な計画として環境基本計画を策定する
- ・環境庁「地域環境管理計画 計画策定の手引き」1986年
- ・第一次環境基本計画(1994年閣議決定)
- ・第六次環境基本計画(2024年閣議決定)

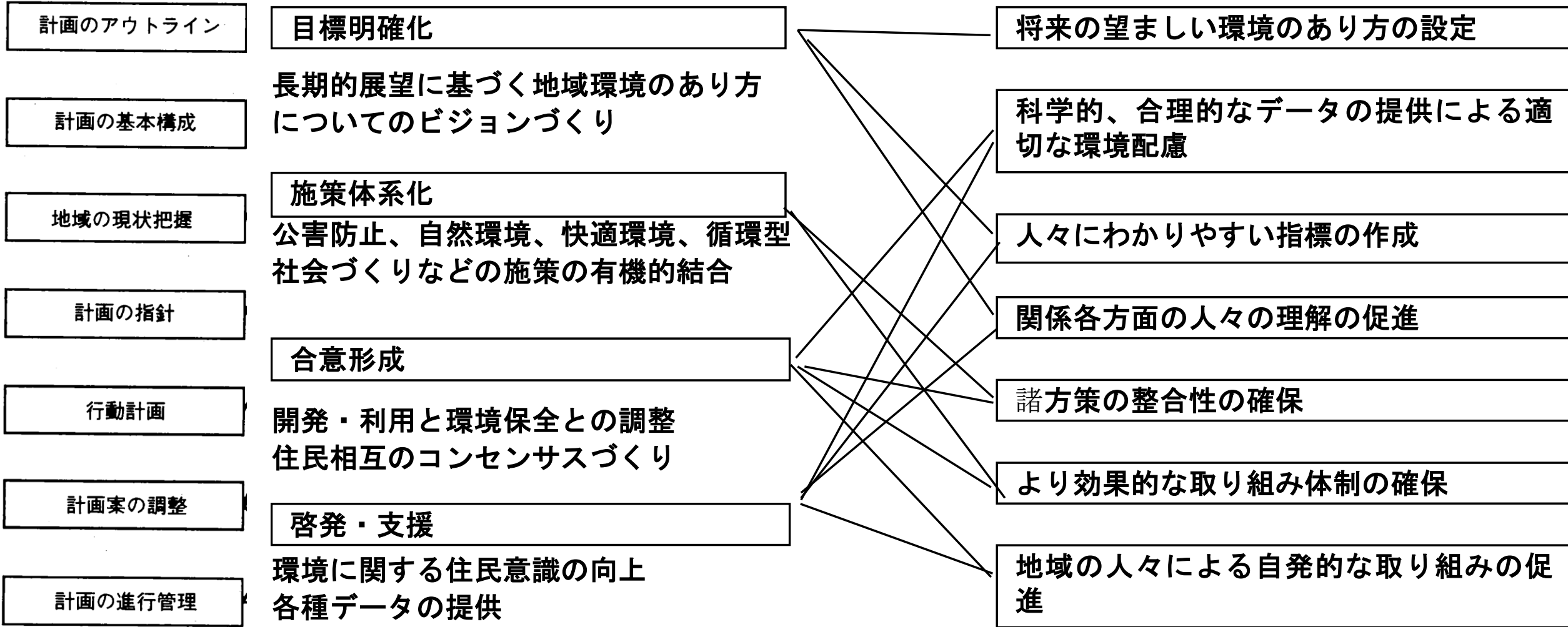
## 長岡京市の動き

- ・長岡京市環境基本計画2001年3月
- ・長岡京市第二期環境基本計画2013年3月
- ・長岡京市第三期環境基本計画2022年3月
- ・長岡京市生活環境の向上等に関する基本条例(1974年10月)」第2条:  
市長は、良好な生活環境の保全に関し必要な施策を策定し、実施する責務を有する。

# 長岡京市環境基本計画の策定経緯と特徴



# 環境計画の機能と効果



# 長岡京市環境基本計画の第一期、第二期の構成の比較

1なぜ私たちは環境基本計画をつくったのか(計画策定の背景)

2めざすべき将来像

3持続可能なまちづくりの基本理念

(1)長岡京市の持続可能なまちづくりの7つの基本理念

(2)持続可能性をこのように長岡京市ではとらえています

4パートナーシップによる今後のプロジェクトの提案

5今後の推進に向けて

長岡京市環境基本計画の構成

各部会報告書

まちづくり部会 報告書

自然部会 報告書

循環部会 報告書

ネットワーク部会 報告書

資料

1土地利用

3産業・経済

5水資源

7交通

2緑と自然

4廃棄物(ごみ)

6エネルギー

8歴史と文化

第1章 長岡京市環境基本計画について

第2章 社会経済の動向と長岡京市の環境について

第3章 基本方向

1 エネルギーを大切にすまちづくりを進めます！

2 資源循環型の社会づくりを進めます！

3 自然環境を守ります！

4 快適な都市環境を創り出します！

5 協働・環境学習・エコアクションに自ら取り組みます！

第4章 基本施策

1 エネルギーを大切にすまちづくり

2 資源循環型社会の形成

3 自然環境の保全

4 快適な都市環境づくり

5 協働・環境学習・エコアクションの推進

第5章 “環境の都”ステップアップ・チャレンジ

1 エコタウン・エコライフのシフトアップ！

2 西山の魅力アップ！

3 環境づくりの市民力アップ！

4 +E エコ・プロモーション

第6章 計画の推進

資料 現況データ等

(1)人口・土地利用

(3)水(水道、雨水利用)

(5)ごみ

(2)緑

(4)エネルギー

(6)交通

## 第一期長岡京市環境基本計画の重点プロジェクト

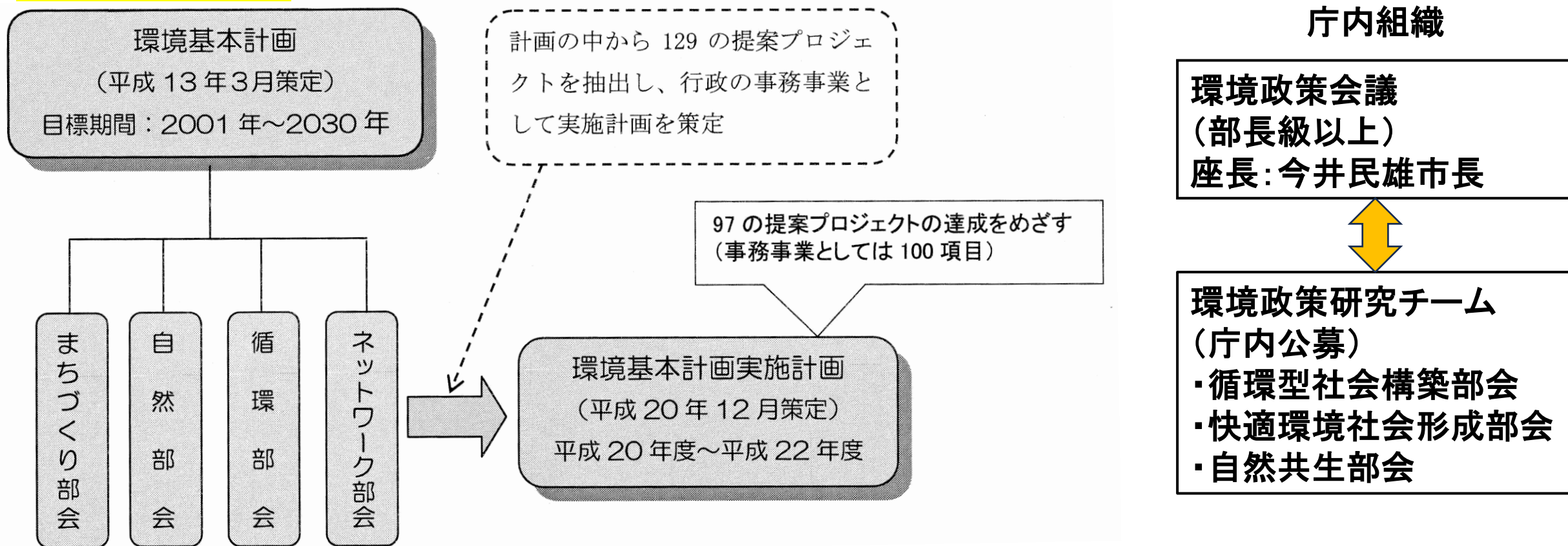
- ・ながおかきょう市民環境会議のメンバーが、まちづくり、自然、循環、ネットワークの4つの部会を設置
- ・パートナーシップのもと、各分野における課題を踏まえ、将来のビジョンと具体プロジェクトの議論を進め、部会別に報告書を作成

まちづくり部会 報告書  
自然部会 報告書  
循環部会 報告書  
ネットワーク部会 報告書

- ・まちかど緑づくり事業
- ・中心部にぎわいづくり事業
- ・中心部における交通規制の実施
- ・伝統料理の良さを広める
- ・学校教育での農体験
- ・自然体験プロジェクト
- ・環境教育アドバイザーの確保
- ・生態系を知って活動に移すプロジェクト
- ・グリーンコンシューマープロジェクト(エコストア認証制度、エコ家庭認証制度、市民環境ニュース発行など)
- ・生ごみと循環農業、健康づくりプロジェクト(学校、公園を拠点とした生ごみ堆肥化社会実験など)
- ・里山再生と水循環プロジェクト(市民参加の里山保全、地域での雨水貯留装置設置など)
- ・市民環境調査隊の編成(自分たちのまちを知る活動)
- ・環境教育のための場づくり
- ・環境教育、体験学習プログラムの充実
- ・地域のリーダー発掘

# 長岡京市環境基本計画第一期から第二期への事業の継続・評価

- ・2001年(平成13年)に策定された長岡京市環境基本計画においては、各部会の「報告書」において合計129の提案プロジェクトが提示。
- ・各部会の提案プロジェクトのうち**行政の事務事業として実施しているもの**を抽出し、進捗管理を行うため、2008年(平成20年)12月に**「長岡京市環境基本計画実施計画」**を策定。



## 達成の概況：長岡京市環境基本計画実施計画（2008年度～2010年度）

- ・129の提案プロジェクトのうち、97プロジェクトを実施、32プロジェクトが未実施
- ・2010年度の達成状況評価では、100事業中84事業で目標が達成され、16の事業が未達成

### 実施計画における提案プロジェクトの実施数 （平成20年度～22年度）

	平成20～22年度
実施提案プロジェクト数	97 (100)
(実施事業数)	
未実施提案プロジェクト	32
完了プロジェクト	0
合計	129

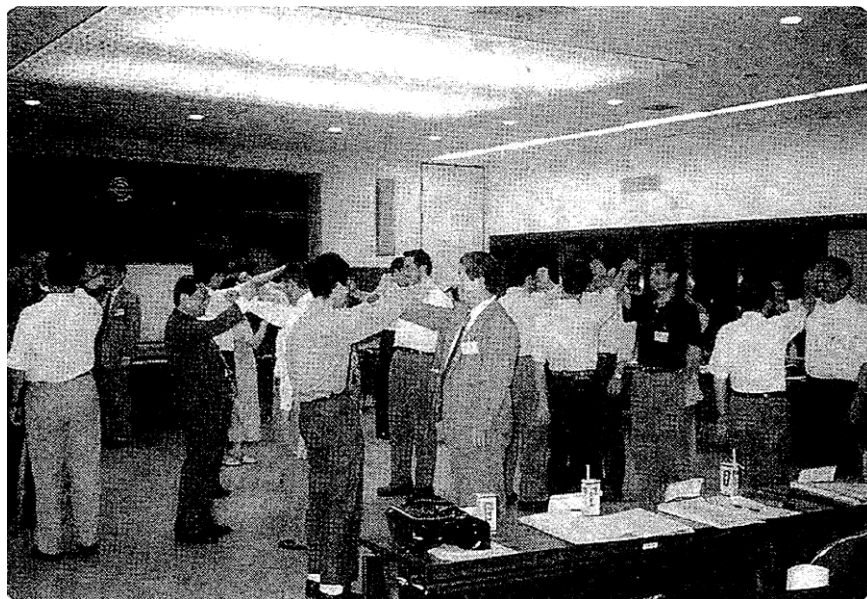
### 平成22年度実施事業評価

達成	未達成	事業合計
84	16	100

# 長岡京市生活環境審議会名簿(2001年3月)第一期環境基本計画策定

京都大学大学院教授	植田 和弘	会長
立命館大学教授	川口 清史	
立命館大学教授	見上 崇洋	
京都教育大学助教授	水山 光春	市民環境会議アドバイザー
京都府立大学助教授	宗田 好史	副会長
環境市民	杵本 育生	市民環境会議アドバイザー
長岡京市経済協議会	藤井 肇	<p>ながおかきょう市民環境会議  (7割位が一般市民)  まちづくり部会(16名)  自然部会(18名)  循環部会(18名)  ネットワーク部会(10名)</p> <p>一切事務局案を提示せず</p> <p>コーディネーター  ・環境市民  ・日本総合研究所</p>
長岡京市商工会	片山 昭	
京都中央農業協同組合	酒井 省五	
乙訓地区労働者福祉協議会	谷井 廣次	
長岡京市自治会長会	野村 和宏	
長岡京市保健衛生協力委員会	山本 房輝	
京都府くらしのアドバイザー	波多野 恭子	
長岡京市女性の会	能勢 久子	
牛乳パックリサイクルの会	大日 美紀子	
長岡京市生活学校	古谷 和子	
ながおかきょう市民環境会議員	森 陽三	
京都府向陽保健所	岡嶋 伸親	
乙訓環境衛生組合	中澤 浩	
長岡京市助役	岸 義次	
長岡京市教育長	芦田 富男	

第1回市民環境会議  
—アイスブレイキング  
で参加者同士の理解  
を深める(1999年8月)。



市民環境会議ではグループに分かれて  
ワークショップにより、参加者全員が意見を  
言えるようにした。



1999年度の活動の総決算として開  
かれた総合シンポジウム—環境基本  
計画のビジョンの発表(2000年3月)

## 第一期環境基本計画策定の特徴

- ・従来のような行政主導型でなく、**地域住民全体**で、望ましい将来像を描き、その実現のための目標を設定し、自らが決定した目標に向けて、それぞれの立場で行動していけるようにするために、**市民環境会議を組織化**
- ・計画策定プロセスを重視し、**市民環境会議を真の策定主体**として、**一切事務局原案を提示せず**に、環境学習プロセスと連動させ、学びながら政策を合意していくプロセスで策定事業を推進
- ・環境基本計画は、幅広い観点から環境をとらえた総合的な環境まちづくりビジョン
- ・まちの将来都市像を『**つむぎ織りなす“環境の都”長岡京**』とし、その実現に向けた基本理念を設定

**日本の環境首都コンテストの全参加：第1回(2001年)～第10回(2010年)**

## 第一期環境基本計画 はじめに(一部)

**みんなの「思い」**で、**足元から持続可能型地域(エコシティ)を創る**ためには、行政だけではなく、市民や事業者の方々など、地域社会の全員が、その実現に向けて行動していくことが必要です。

そこで、今回の計画策定には、従来のような**「行政主導型」**でなく、**地域住民全体**で、望ましい将来像を描き、その実現のための目標を設定し、自らが決定した目標に向けて、それぞれの立場で行動していけるようにするために、**「市民環境会議」**を組織させていただいたところです。

特に、計画策定プロセスを重視し、市民環境会議を真の策定主体として、**一切事務局原案を提示せずに、環境学習プロセスと連動させ**、学びながら政策を合意していくプロセスを大切に策定事業を進めてきました。

平成13(2001)年3月  
長岡京市長今井民雄

# 環境面から目指すべき将来都市像 「つむぎ織りなす“環境の都”長岡京」

## 長岡京市の持続可能なまちづくりの7つの基本理念 －第一期から第三期長岡京市環境基本計画まで不変－

1. すべての施策・行動を**持続可能性に基づいて策定**し、総合化します
2. **環境と地域経済・雇用・生活の質の改善を両立**させます
3. 地域に固有の**自然と文化を大切に**守り、育てます
4. **社会的公正に配慮**し、すべての人々と**資源と環境を分かち合**います
5. **資源・エネルギーが循環する地域**をつくります
6. **みんなが参加して、いっしょに計画をつくり、実践**します
7. **持続可能な社会を実現**するための**教育、人づくりに力**を注ぎます

## 長岡京市環境基本計画第一期、第二期、第三期の特徴比較

	第一期（2001年度～）	第二期（2013年度～）	第三期（2022年度～）
将来像・基本理念	「つむぎ織りなす“環境の都”長岡京」	(継承)「つむぎ織りなす“環境の都”長岡京」	(継承)「つむぎ織りなす“環境の都”長岡京」
位置付け	初動期:環境まちづくりの「ガイドライン」および「基本指針」の確立	発展期:第一期の成果を踏まえた、具体的な環境施策の大きな飛躍	成熟期:脱炭素やSDGsなど現代の課題に加速度的に対処する段階
計画目標	2030年を見通したプロジェクトの提案と実行	2030年に向けた、概ね10年の具体的な環境施策の実行	2030年度温室効果ガス46%削減、2050年ゼロカーボンシティの実現
基本施策(柱)	4つの柱:環境にやさしいまち、自然、循環社会、地域のネットワーク	第一期の具体施策化 + 3つの重点プロジェクト(エコライフ、西山、市民力)	4つの基本施策(気候変動、資源循環、環境共生、都市環境) + 4つの横断的視点
推進手法	市民環境会議によるボトムアップ提案	プロジェクトチームによる具体的施策の実行	分野横断的視点、人結び、既存主体間の協働
国際的背景	地球サミット(1992)、COP3(1997)	地球温暖化対策の推進	パリ協定、持続可能な開発目標(SDGs)

## 市民参加の変遷:初動期から成熟期へ

計画区分	住民参加・市民参加の主な形態と特徴
第一期(初動期) 2001～2012年度	計画策定段階から市民公募委員／ <b>市民環境会議(分科会)</b> を起用。 <b>市民主体の提案と参画が中心</b> 。行政が <b>原案を提示せず、市民が2年かけて</b> 学びながら「 <b>環境の都</b> 」というビジョンと「 <b>提案プロジェクト</b> 」を作成。
第二期(発展期) 2013～2021年度	市民アンケート・環境団体ヒアリング・無作為抽出市民による <b>「市民まちづくりセッション」</b> など、より組織的・多様な参加手法を導入。住民参加型の再エネ検討など実践型プログラムも。
第三期(成熟期) 2022～2030年度	市民・団体・事業者・学識者と行政の <b>協働／パートナーシップを明示</b> 。生活環境審議会や外部委員による年次検証、実施計画の「見える化」によって市民参加と説明責任を強化。 <b>市民参画は計画実行段階の重要な柱に。</b>

## 第一期から第三期の変遷から見える特徴

**理念の継承**: 第一期で定められた「7つの基本理念」は、20年以上経過した第三期においても全く変わることなく計画の根底を支え続けている。

**目標の具体化**: プロジェクトを「提案」する段階(第一期)から、具体的施策を「実行」する段階(第二期)を経て、現在では温室効果ガス削減などの「数値目標」に挑む段階(第三期)へと進化。

**推進体制の成熟**: 行政主導を排した市民参画(第一期)から、実行力を持つチームの形成(第二期)、そして異なる主体同士を結び付けて相乗効果を生む「人結び」(第三期)へと、パートナーシップの形がより戦略的に。

**計画の統合**: 第三期では、環境基本計画に「温暖化対策実行計画」や「地域気候変動適応計画」を併合しており、より包括的な気候変動対策のマスタープラン。

時代	日本の環境政策	長岡京市の特徴
1970年代	公害対策中心	生活環境行政
1990年代	地球環境問題化	市民参加型計画
2000年代	協働型行政 (第一期環境計画)	市民環境会議
2010年代	SDGs・低炭素 (第二期環境計画)	実施計画・PDCA
2020年代	脱炭素・適応 (第三期環境計画)	統合型環境計画

# 行政からみたメリット

—行政の発想だけではない草の根的な市民が主体となった計画策定—

## 計画の実効性と責任感の向上

- 市民が「真の策定主体」として自ら目標を決定したため、行政が一方向的に押し付ける計画とは異なり、各主体が「自らが決定した目標に向けて、それぞれの立場で行動する」という強い責任感と当事者意識が生まれました⇒**計画が「絵に描いた餅」になるリスクを低減**

## 強固な信頼・協力関係（パートナーシップ）の構築

- 2年間にわたる対等な議論を通じて、市民、事業者、行政の間に「互いに信頼・協力関係を育てる」プロセスが共有
- パートナーシップは、計画策定後も施策を推進していく上での強力な行政基盤

## 草の根の知恵と創造性の活用

- 行政職員だけの発想に縛られず、**市民からの「発想、創造性、知恵、行動力」**
- **地域固有の資源**（西山の自然や歴史文化など）を活かした、より地域の実情に即した施策

## 環境学習を通じた市民レベルの向上

- 策定プロセスを「環境学習」と連動させたことで、市民の知識レベルが底上げ
- 行政が環境施策を進める際の理解者や協力者を増加

# 行政からみたデメリット(リスク・苦労)

—行政にとって管理や運営の面で多くの困難や不確実性—

## 膨大な時間と労力の投入

- 通常の計画策定よりも長い2年間を費やす必要
- 事務局原案を示さずに議論の積み上げ⇒行政実務として多大な忍耐とエネルギー

## 初期段階における組織の不安定さ

- 市民の手によって作られた推進体制⇒よちよち歩きの状態で不安定
- 行政は、この組織が独り立ち(自立)を目指す⇒一定期間、手厚い支援や仕掛けを継続

## 未解決の基盤課題の残存

- 住民主体で理念を重視⇒計画完成後も行政が解決すべき現実的な課題が山積

## 運営費用の捻出

- 人件費や事務経費などの具体的な資金確保

## 法的根拠の整備

- 推進組織にどのような法的根拠(条例や要綱)を持たせるか

## 活動拠点の確保

- 交流や学習を行うための物理的な場所の提供

## 結果の不確実性

- 行政が原案を提示しないため、着地点をコントロールしにくいというリスク⇒生活環境審議会による評価体制を組み合わせることで、このリスクを管理

## 長岡京 市民まちづくりセッション(1)

### 長岡京 市民まちづくりセッションとは

- ・わが国では、**プラーヌクスツェレ(計画細胞)**というドイツ起源の**市民参加手法**を参考として、市民討議会という市民参加型ワークショップが実施
- ・長岡京 市民まちづくりセッションは、他都市の市民討議会の取組み事例に学びながら、スタッフによる独自の工夫のもとで企画

### 長岡京 市民まちづくりセッションの目的

- ・長岡京市第一期環境基本計画(2001年3月)の改定にあたり、環境づくりに関して**市民が感じる課題や関心を把握する**とともに、環境づくりのためのアイデアや提案を求めて、計画内容に反映させること
- ・**サイレント・マジョリティー**と呼ばれる、これまで行政に声を届けるきっかけの少なかった市民層に対して参加を促して、その声を市政に生かそうとする試みでもあることから、実施結果を受けて、こうした**市民参加手法の検証・評価を行うこと**
- ・市民討議会の案内の応諾者69名より、性・年代のバランスを考慮した抽選によって**40名を参加者**として選定

# 長岡京 市民まちづくりセッション(2)

テーマ①:長岡京市の緑を守ること、  
つくること

テーマ②:長岡京市の温暖化対策



# 長岡京市第三期環境基本計画(2022年3月)(1)

## 環境の範囲

人の活動を中心に

①地球環境

③地域環境

②自然環境

①②③に関連する建物環境

### ①地球環境

- ・ 大気
- ・ 気候
- ・ オゾン層
- ・ 海洋
- ・ 熱帯雨林
- ・ 資源、エネルギー 等

### ②自然環境

- ・ 森林
- ・ 河川、池沼
- ・ 地盤
- ・ 地下水
- ・ 動物
- ・ 植物 等

### 人の活動

- ・ 資源の消費
- ・ 廃棄物排出
- ・ 自然環境の利用
- ・ 環境教育
- ・ エネルギーの消費
- ・ 温室効果ガスの排出 等

### ③地域環境

- ・ 水辺
- ・ 公園緑地
- ・ 農地
- ・ 歴史、文化
- ・ 景観
- ・ 静かさ
- ・ 交通
- ・ 廃棄物
- ・ 建造物 等

### ①②③に関連する建物環境

- ・ 温度
- ・ 湿度
- ・ 日照
- ・ 建材
- ・ エネルギー 等

相互作用

相互作用

相互作用

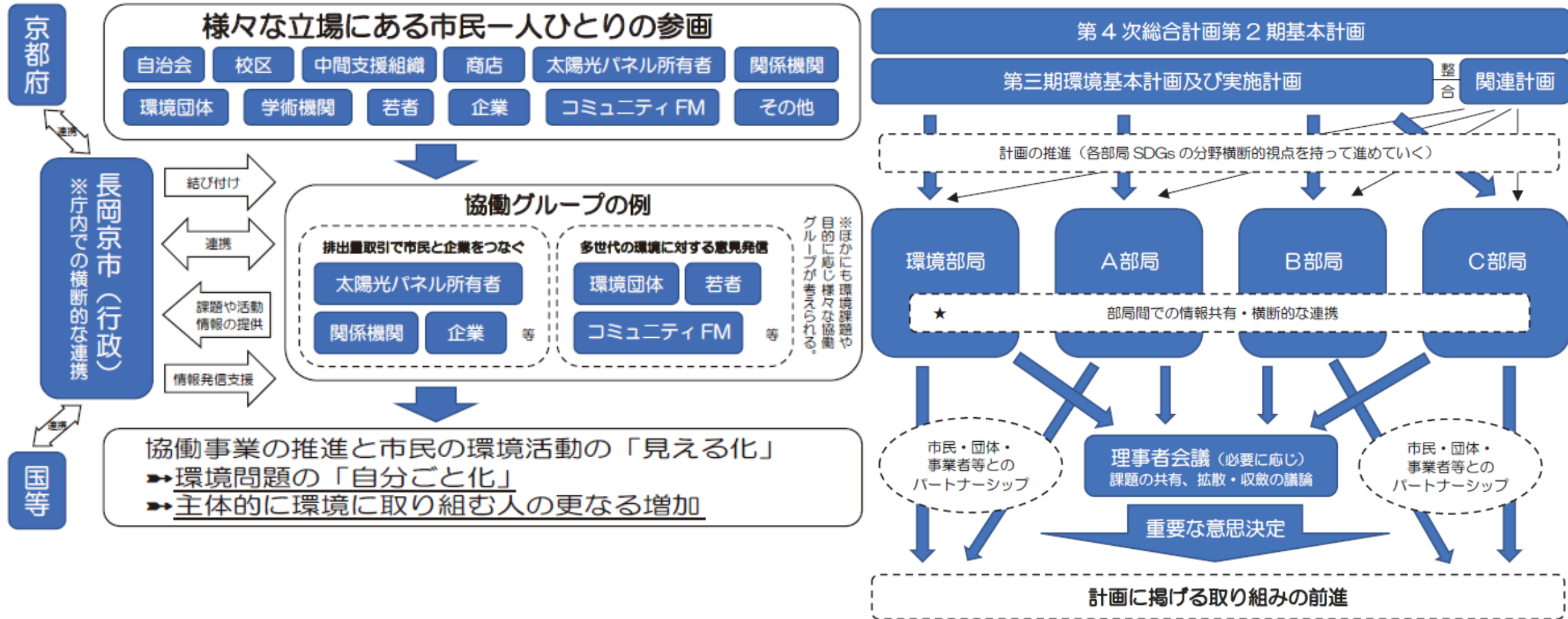
# 長岡京市第三期環境基本計画 (2022年3月)(2)

## 分野横断的視点及び施策



# 長岡京市第三期環境基本計画(2022年3月)(3)

計画の実行体制: 下図のような体制が重要と記載(実効性は?)



# 長岡京市第三期環境基本計画の各取り組み内容の評価(2024年度全体の評価)

柱1 気候変動対策(緩和・適応)

柱2 資源循環

柱3 環境共生

柱4 都市環境

分野横断的視点

	柱1	柱2	柱3	柱4	分野横断	計	◎◎の小計	◎◎の割合
◎	17	12	9	9	11	58	85	88%
○	5	3	7	6	6	27		
△	3	1	2	5	1	12		
×	0	0	0	0	0	0		
計	25	16	18	20	18	97		

	数値目標	定性の目標
◎	目標数値を達成	目標の状態に達している
○	目標数値の7割以上達成	目標の状態に完全には達していないがおおむね達成していると判断できる
△	目標数値の7割未満の達成	前年度より進捗している
×	目標に達するための取り組みをしていない	前年度から取り組んでいない

## 第三期環境基本計画第1期間の各取り組み内容の評価の変遷(一部)

(4)水資源の有効活用・水環境の整備		R4	R5	R6
①水を大切にするライフスタイルの普及啓発	水だよりの発行	◎	◎	△
②将来にわたり安全で安定した水環境の維持	ストックマネジメント計画に基づく点検の実施	◎	◎	◎

### 柱 3 環境共生

(1)西山をシンボルとする自然環境の保全・再生・活用		R4	R5	R6
①西山の森林整備	竹林を含む森林整備	◎	◎	○
	森林整備のうち利用間伐	○	◎	◎
②生物多様性の保全	モニタリングサイト 1000 里地調査の支援	◎	◎	△
	野生動物と親しむ機会の創出	◎	◎	◎
③西山の有効活用	西山を活用した環境学習	◎	◎	◎
	地域の環境活動を担う人材の養成講習会・研修会の実施	◎	◎	○
	西山キャンプ場の有効活用	○	○	○
④森林組合の育成	森林組合の組織運営維持	○	○	○

# 第一期、第二期、第三期長岡京市環境基本計画の変化のまとめ(1)

## 1. **概念の深化**: ローカルからグローバル、そして統合へ

- ・第一期計画は、1992年の地球サミットで提唱された「ローカル・アジェンダ21」を地域レベルで具現化を目指
- ・第三期計画では国連のSDGsを全面的に採用し、環境施策が経済や社会へも貢献するという「分野横断的視点」を導入
- ・単一の環境問題解決から、社会システム全体の持続可能性を追求

## 2. **気候変動対策の高度化**: 緩和から適応、脱炭素へ

- ・計画の進展に伴い、気候変動へのアプローチが高度化
- ・第一期では「資源・エネルギーの循環」が柱の一つ
- ・第三期では「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言し、温室効果ガスの排出削減(緩和策)に加え、既に生じている影響に対応する「地域気候変動適応計画」を統合
- ・緩和と適応の両輪で気候危機に立ち向かう体制が整備

## 第一期、第二期、第三期長岡京市環境基本計画の変化のまとめ(2)

### 3. **パートナーシップの進化:**組織化からネットワーク化へ

・第一期は「行政主導型」を脱し、市民環境会議という策定主体を組織する段階

第二期は、プロジェクトチームを設置し、中間支援組織の設立に向けた「人」と「力」を育てる発展期

第三期は、既存の多様な主体(若者、事業者、団体等)を課題に応じて結びつける「人結び・SDGsモデルプロジェクト」を展開

・特定の組織を作るだけでなく、社会全体のネットワークを最適化して「自分ごと化」を促す成熟した協働モデルへと移行

### 4. **継承される基本理念**

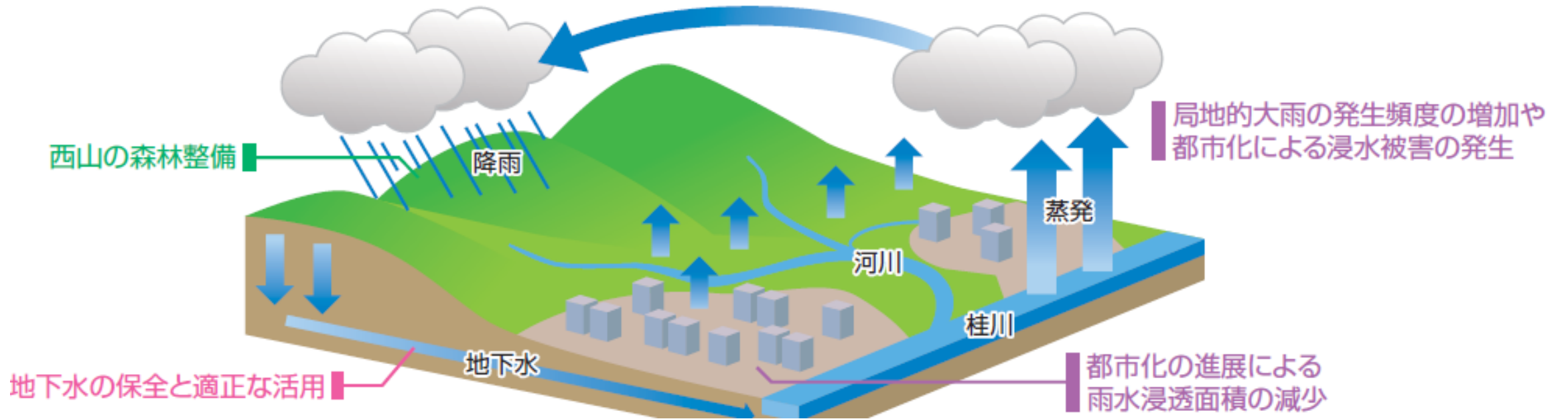
・変化の一方で、「持続可能なまちづくりの七つの基本理念」は第一期から第三期まで変わらず継承

## 長岡京市環境基本計画の他都市との比較・評価

- ・長岡京市環境基本計画：2000年前後という時代を考えると、第一期環境計画の行政は原案を示さない**市民環境会議はトップレベルに近い評価**。第二期の市民まちづくりセッションも同様。
- ・**環境市民**：長岡京市、津山市、福知山市では環境基本計画策定を目的とした**市民主体の委員会のコーディネートを受託**。市民セクターの活動が成熟していない日本において**先進的事例の役割**。

自治体	市民参加の特徴	主導性	代表的手法	特徴的成果	課題
長岡京市	市民主体型	市民主導	市民まちづくりセッション・市民環境会議	市民が環境像を形成	継続的人材確保
北九州市	公害克服型協働	行政＋市民	地域協働・ESD	地域ぐるみ環境活動	組織化による固定化
川崎市	パートナーシップ型	行政主導協働	協働会議・事業者参加	企業巻き込み	市民主体性がやや弱い
横浜市	大規模型参加	行政主導	大規模WS・意見募集	多主体参加	参加の深まりに差
鎌倉市	対話重視型	市民＋行政	未来対話WS	ビジョン共有	実装への接続

# 環境基本計画の下位計画：長岡京市水循環再生プラン(2012年：実施期間2030年)



## 水循環の再生

### 浸水の解消

- いろは呑龍トンネル
- 今里雨水貯留施設
- 雨水計画の確率降雨年のUP
- 雨水排除施設の整備

### 雨を溜めて利用

- 地下貯留施設(長岡第七小学校)
- // (野添公園)
- 雨水貯留タンク(市役所他)
- 各家庭の貯留タンク(助成制度)

散水等へ利用

### 地下水保全と利用

- 地下水を公水とした「長岡京市地下水採取の適正化に関する条例」の制定(昭和51年)
- 長岡京市水資源対策基金の設立と地下水保全・涵養事業への支援

### 西山の森林整備

- 森林整備事業の実施
- 西山ファミリー環境探検隊の開催
- 森林ボランティア養成講座の実施
- 環境調査の実施

## 参考文献と環境基本計画の文献レビュー

### <参考文献>

長岡京市第4次総合計画第2期基本計画:長岡京市、2021年3月

長岡京市環境基本計画:長岡京市、2001年3月

長岡京市第二期環境基本計画:長岡京市、2013年3月

長岡京市第三期環境基本計画:長岡京市、2022年3月

長岡京市第二期環境基本計画・実施計画(令和元年度から3年度)

長岡京市第三期環境基本計画・実施計画(令和4年度～6年度)

長岡京市第三期環境基本計画・実施計画(令和7年度～9年度)

住民参画行政の針路(18)市民環境会議が主体となって環境基本計画を策定—京都府長岡京市:浮谷次郎、農19(6)(通号212) 2000年

杵本育生(2002):日本のフライブルクをつくろう—環境首都コンテストスタート—、『環境技術』

西山森林整備構想:長岡京市(令和7年4月)

長岡京市水循環再生プラン:長岡京市(平成24年2月)

長岡京市第2次みどりの基本計画:長岡京市(令和8年3月)

長岡京市一般廃棄物処理基本計画:長岡京市(令和4年3月)

### <環境基本計画の文献レビュー>

田村 明(1980):『環境計画論』鹿島出版会

原科幸彦(1983):地区レベルでの環境計画プロセスにおける住民意向反映手法に関する研究、『地域学研究』

末石富太郎十環境計画研究会編(1993):環境計画論—環境資源の開発・保全の基礎として』森北出版

盛岡 通(1995):都市の環境基本計画と都市環境計画の新たな展開、『都市問題』

中口毅博(1999):地域環境計画における目標設定のための自然環境総合指標の開発—宮城県を事例として—、『地理学評論』

植村久子(2001):環境基本計画の環境目標達成状況に対する評価段階の市民参加と指標体系のあり方、『現代社会研究(京都女子大学)』

森田健太郎(2001):市民と自治体による協働・パートナーシップ推進の研究 地域環境基本計画策定過程を事例として、『水資源・環境研究』

田中 充・中口毅博・川崎健次編(2002):『環境自治体づくりの戦略—環境マネジメントの理論と実践—』ぎょうせい

中口毅博(2003):環境基本計画における目標管理の現状とその評価—環境指標の活用状況の評価を中心に—、『環境科学会誌』

川崎健次・中口毅博・植田和弘編(2004):『環境マネジメントとまちづくり 参加とコミュニティガバナンス』学芸出版社

原科幸彦編(2005):『市民参加と合意形成—都市と環境の計画づくり—』学芸出版社

原科幸彦編(2007):『環境計画・政策研究の展開—持続可能な社会づくりへの合意形成』岩波書店

平岡俊一(2007):市民参加型環境政策形成におけるコーディネーターとしての環境 NPO—京都府城陽市の事例から—、『ノンプロフィット・レビュー』

宮永 健太郎 (2011):『環境ガバナンスとNPO: 持続可能な地域社会へのパートナーシップ』昭和堂

小野 聡・井関崇博・原科幸彦(2011):環境基本計画策定プロセスにおける市民と行政の協働～愛知県日進市を事例として～、『計画行政』

秋山道雄・藤田芽紅(2014):環境計画の構想と実践—彦根市環境計画の政策評価から—、『立命館大学 政策科学』

中口毅博(2014):自治体環境計画の新たな視点に基づく計画の特徴の分析、『都市計画報告集』

長野浩子(2018):市民参加のまちづくりの変容に関する研究—日野市の市民活動と環境基本計画策定・推進の実態から—、『サステナビリティ研究(法政大学)』

門川博子(2020):持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた自治体環境基本計画における参加と協働の政策形成プロセスについて:京都市環境基本計画を中心として、『都市経営研究』

大久保規子(2024)環境権と市民参加、『環境法政策学会誌』

大倉紀彰(2024):「ウェルビーイング/高い生活の質」を最上位の目的に置いた第6次環境基本計画、『環境情報科学』

中根英昭(2025):ウェルビーイングをめぐる政策動向と環境共生、『環境共生』

鷲津明由・赤尾健一(2025):地域循環共生圏構築のための重要成功要因についての考察、『エネルギー・資源学会論文誌』

福嶋慶三(2026):人口減少社会における地方創生としての地域循環共生圏の可能性—関西のケースを中心に、『環境法政策学会誌』

環境マネジメントとまちづくり: 参加とコミュニティガバナンス: 川崎健次/中口毅博/植田和弘【編著】学芸出版社(2004年)

本書が成立した直接的なきっかけは、環境自治体づくりのもっとも熱心な実践家で理論家の1人でもあった川崎健次氏が残した仕事に触発されて集まったことにある。

環境自治体づくりの目的は、直接的には地域社会の達成すべき環境目標を住民とともに実現できる自治体づくりにある。環境自治体はこの間、環境マネジメントのためのさまざまなツールを開発し実践してきた。

日本の公害対策は自治体から始まったということが出来るが、国レベルでの環境政策が制度化されるにつれて、また2度にわたる石油危機に伴う低成長経済への移行と税収減が環境や福祉の政策的優先順位を下げさせることにつながったこともあって、自治体環境政策の独自性や先進性は失われていったように思われる。

公共性は公共機関の独占物ではなく、住民が担ういわゆる市民的公共性こそその核心だということである。環境NPO活動や環境パートナーシップでの取組みが生み出す共同性、そして協働的取組み自体が市民的公共性を有するというべきであろう。市民的公共性に担われた環境マネジメントが確立されてはじめて持続可能な地域社会づくりの展望は見えてくるのであろう。

2004年5月 編者を代表して 植田和弘